

- 【留意事項】**
- 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 - (注) 実際の現実では、防潮堤等が破壊する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
 - 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

- 【「津波浸水想定」と同じ計算条件】**
- 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と深さ（浸水深）を表したものです。
 - 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
 - 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

- 【「津波浸水想定」と異なる計算条件】**
- 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

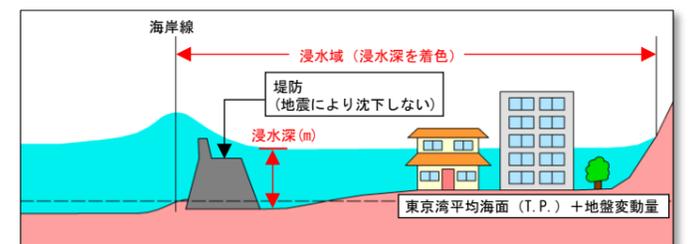
- 【用語の説明】**
- 浸水想定について
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
 - 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

【参考】

以下の条件下で計算したものです。

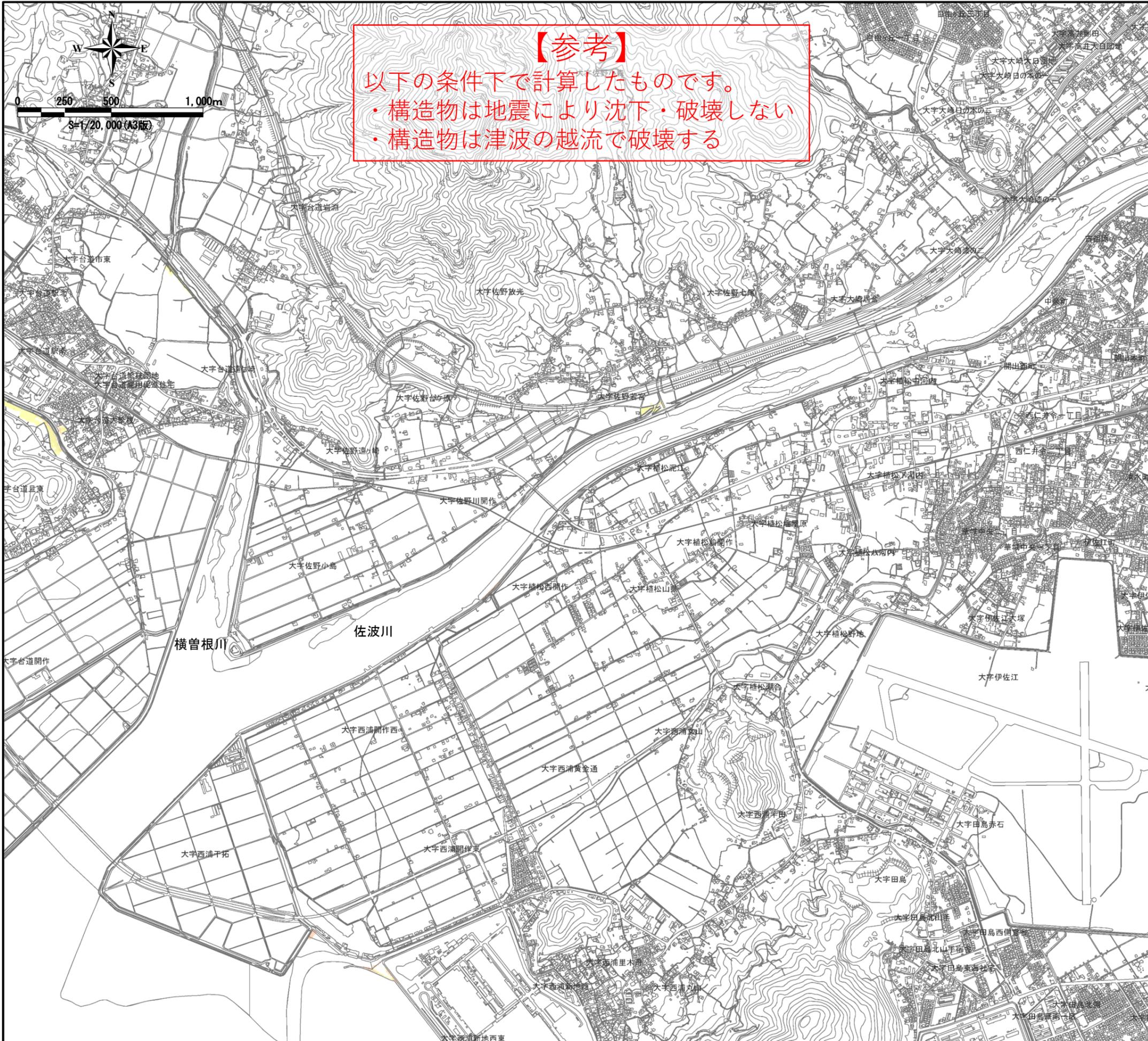
- ・ 構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・ 構造物は津波の越流で破壊する

浸水深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満

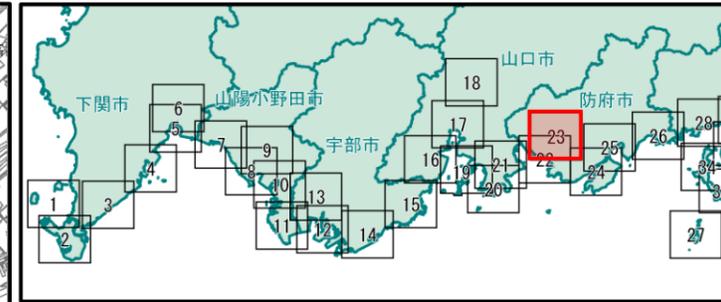


地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まることがあります。

作成者：山口県
作成年月：令和8年3月



【参考】
 以下の条件下で計算したものです。
 ・ 構造物は地震により沈下・破壊しない
 ・ 構造物は津波の越流で破壊する



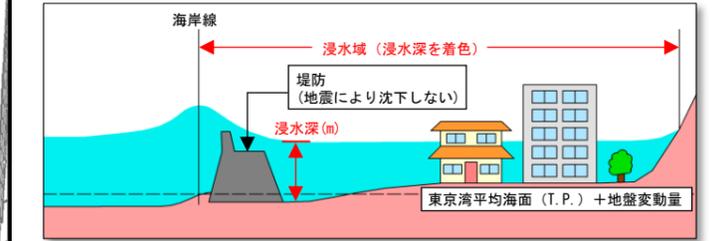
【留意事項】
 ○ 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 (注) 実際の現実では、防潮堤等が破壊する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
 ○ 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】
 ○ 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と深さ(浸水深)を表したものです。
 ○ 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
 ○ 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

【「津波浸水想定」と異なる計算条件】
 ○ 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

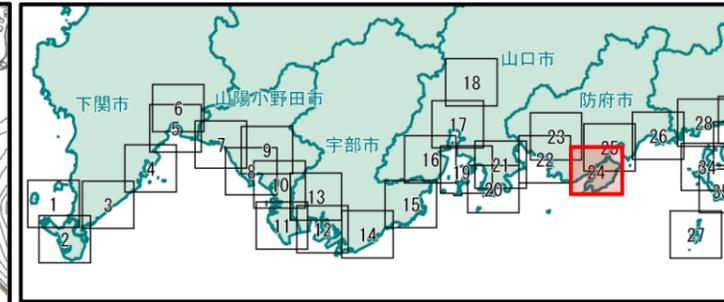
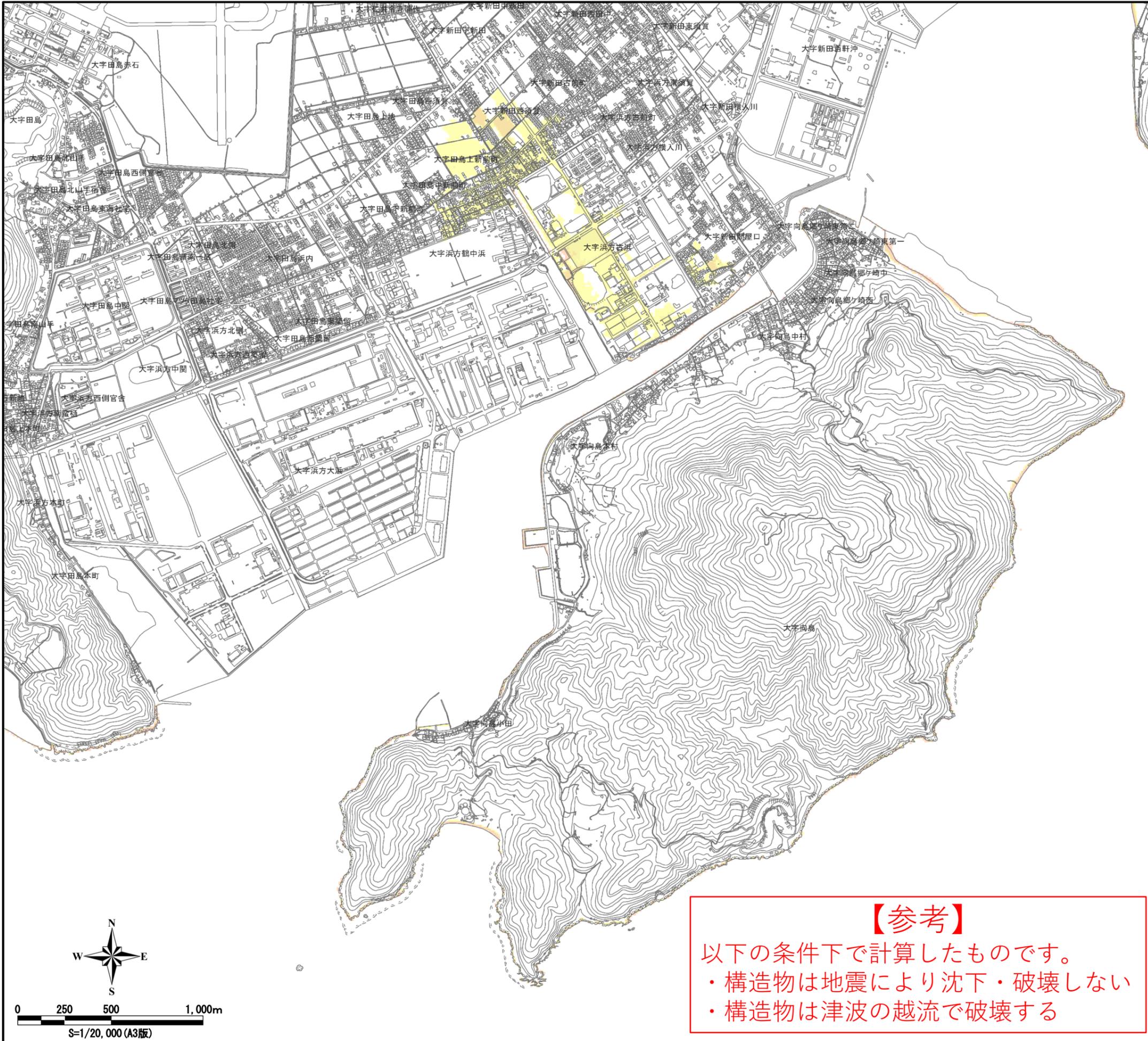
【用語の説明】
 浸水想定について
 ○ 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
 ○ 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

浸水深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満



地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まる場合があります。

作成者：山口県
 作成年月：令和8年3月



【留意事項】

- 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
(注)実際の現実では、防潮堤等が破壊する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
- 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と深さ（浸水深）を表したものです。
- 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
- 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

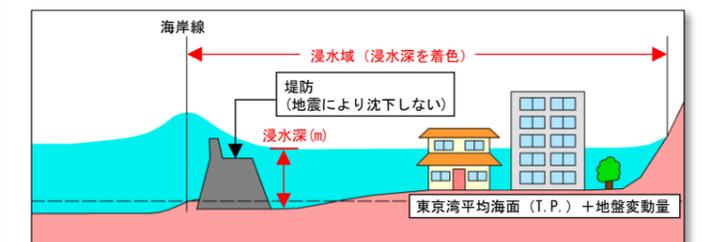
【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

【用語の説明】

- 浸水想定について
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
 - 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

浸水深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満



地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まる場合があります。

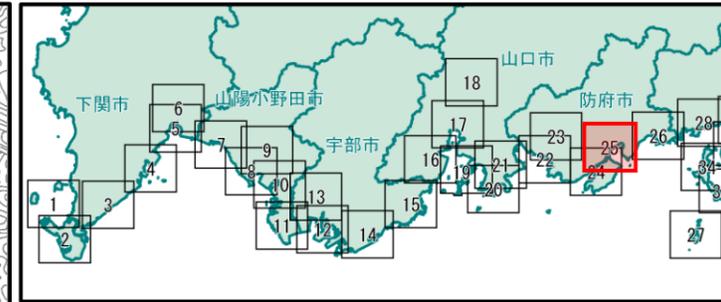
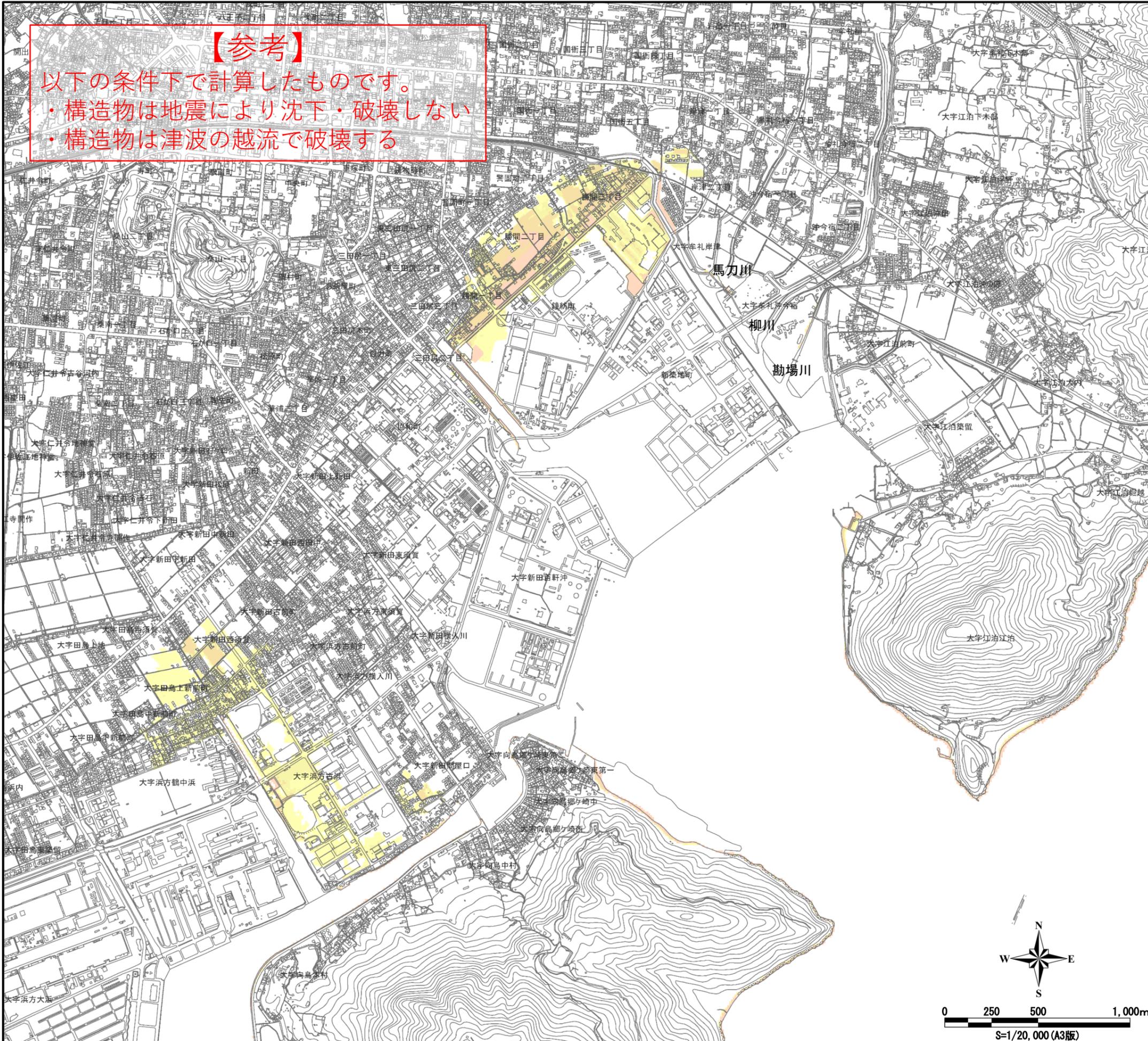
【参考】
以下の条件下で計算したものです。
・構造物は地震により沈下・破壊しない
・構造物は津波の越流で破壊する

作成者：山口県
作成年月：令和8年3月

【参考】

以下の条件下で計算したものです。

- ・ 構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・ 構造物は津波の越流で破壊する



【留意事項】

- 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
(注) 実際の現実では、防潮堤等が破壊する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
- 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と深さ（浸水深）を表したものです。
- 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
- 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

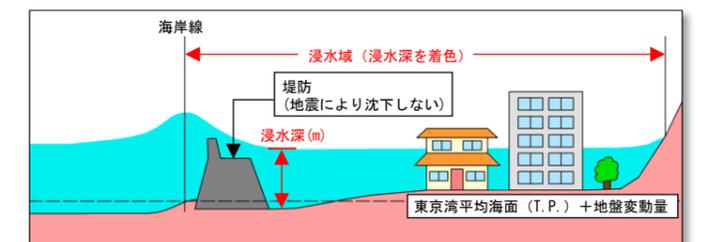
- 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

【用語の説明】

浸水想定について

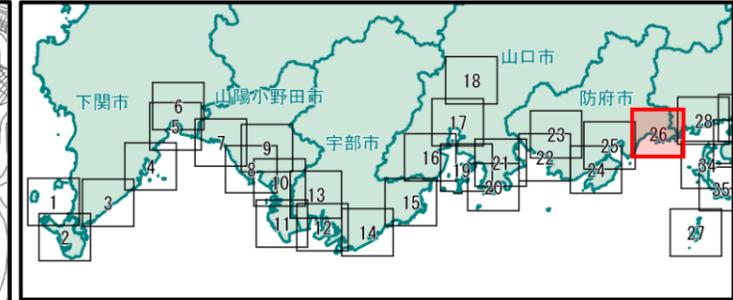
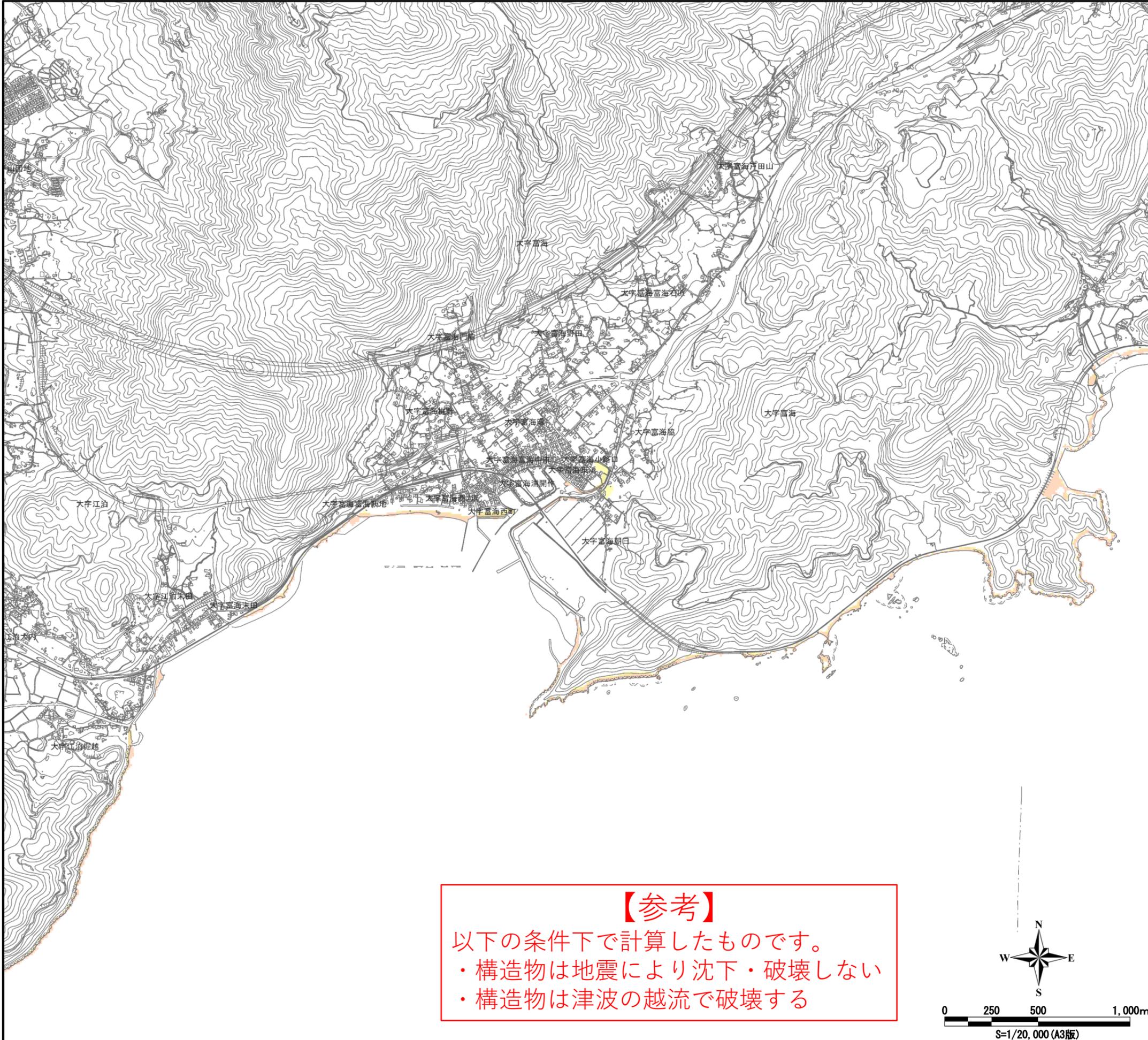
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
- 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

浸水深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満



地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まる場合があります。

作成者：山口県
作成年月：令和8年3月



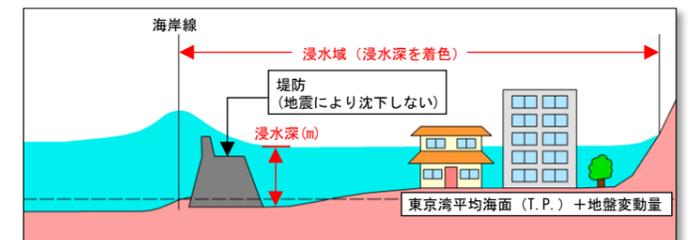
- 【留意事項】**
- 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 - (注) 実際の現実では、防潮堤等が破壊する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
 - 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

- 【「津波浸水想定」と同じ計算条件】**
- 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と深さ（浸水深）を表したものです。
 - 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
 - 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

- 【「津波浸水想定」と異なる計算条件】**
- 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

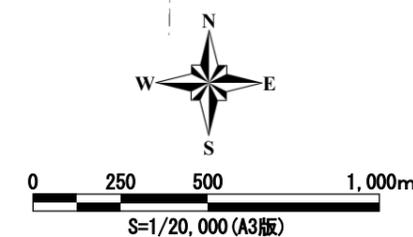
- 【用語の説明】**
- 浸水想定について
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
 - 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

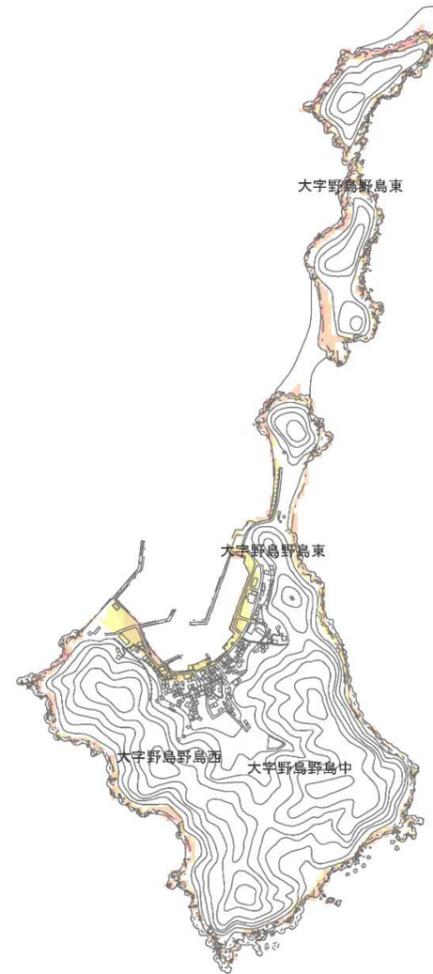
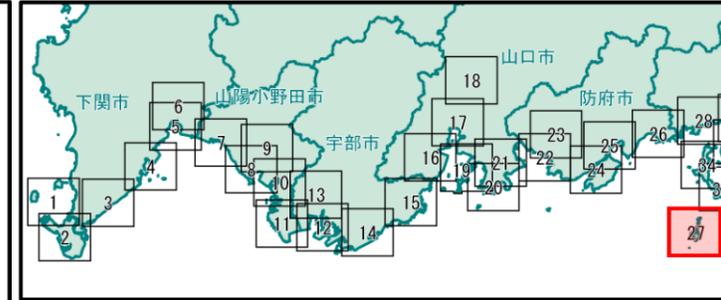
浸水 深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満



地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まる場合があります。

【参考】
 以下の条件下で計算したものです。
 ・ 構造物は地震により沈下・破壊しない
 ・ 構造物は津波の越流で破壊する





【留意事項】

- 本資料は、堤防等の構造物が地震により沈下・破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
- (注) 実際の現実では、防潮堤等が破堤する場合や破堤しない場合があると考えられるため、仮に地震により沈下・破壊しなかった場合を参考値として計算したものです。
- 避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合の計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- 最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と深さ（浸水深）を表したものです。
- 計算時の潮位を朔望平均満潮位で計算したものです。
- 津波が堤防等の構造物等を越流した場合、破壊するものとして計算したものです。

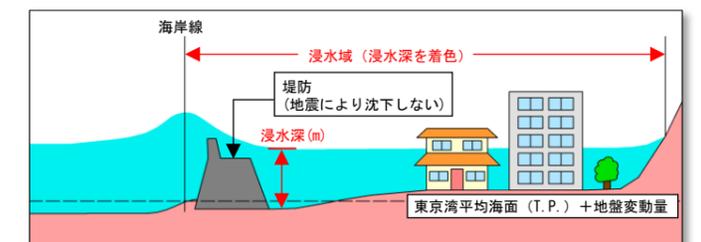
【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- 耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、堤防等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。

【用語の説明】

- 浸水想定について
- 浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
 - 浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置に来た時の地面から水面までの高さ

浸水 深	5.0m以上	0.5m以上1.0m未満
	3.0m以上5.0m未満	0.3m以上0.5m未満
	1.0m以上3.0m未満	0.1m以上0.3m未満



地域によっては、地震により堤防等が破壊され、津波が襲来する前に浸水が始まる場合があります。

【参考】
 以下の条件下で計算したものです。
 ・ 構造物は地震により沈下・破壊しない
 ・ 構造物は津波の越流で破壊する

